

# めざそう職場の安全・安心！

2010 年度安全衛生研修会 in 大鳥機工(株) 2010.8.6

JAM山陰は、3回目となる「安全衛生研修会」を、鳥取市にある大鳥機工株式会社にて開催。山陰両県から12企業32名の労使が参加した。主催者を代表して多久和執行委員長は、受け入れを快諾頂いた大鳥機工(株)の労使にお礼を述べた後「健全な労使関係の上に、安全や安心はつくられる。日頃の活動の積み重ねとして組合員の健康と安全を守っていこう」とあいさつした。大鳥機工・玉置純二取締役部長は「我社の活動や工場見学を通じ、気付いた点をどんどん指摘して頂き、安全・衛生活動に反映させるべく引き受けた」と受入挨拶をした。引き続き、大鳥機工(株)の会社概要から安全衛生活動の取組説明を受け、工場見学では、工作機械の製造現場や半導体製造設備などを見学。連日の猛暑続きで現場も高温作業を強いられていた。意見交換では「保護メガネの着用及びそれに関わる災害状況」、「リスクアセスメントとKYT活動の取り組みについて」、「製品検査場の照明の問題」などの課題について質疑応答が行われた。



基調講演では、内閣府男女共同参画局地域活性化アドバイザーの福井正樹氏から「ワーク・ライフ・バランス～男女共同参画と働き方革命～」のテーマで講演。「ワーク・ライフ・バランスは、義務的な取り組みではなく、個人にとっても企業にとっても大変メリットの高い取り組み。生き方と働き方を変えて社会を変えよう」と、日本における男女共同参画の現状と今後の課題について学んだ。

## 「しっかり聞いて、きっちり総括」 2010.7.30 「第6回執行委員会」

JAM山陰は、第6回執行委員会を開催し「津田やたろう再選」への御礼と結果を踏まえた意見交換、2011年度活動方針の骨子などを協議した。

本部の斉藤書記長は「終盤に近づけば近づくほど取り組みを貫徹し、最後まで全力を尽くして頂いた成果だ」と参議院選挙の労をねぎらった。結果について「当選順位は上がったものの、2万弱の獲得票減少は個人名獲得の難しさを改めて感じる。今後の取り組みに活かすためにも、皆さんの声をしっかり聞いて、きっちり総括していきたい」と説明した。会議では、9月末に開催予定の第12回定期大会へ向け、活動方針案の骨子が説明され、情勢に適応した補強を加えることが確認された。



▲参院選結果報告する斉藤書記長

## 「活動強化と予算配分…」 7/30 総務・財政委員会



JAM山陰は「第3回総務・財政委員会」を開催し、本年度の期末決算状況と来年度の財政枠を踏まえた2011年予算案について検討。新たな活動として、シニアクラブ

の発足とwith山陰発足準備会の設置をはじめ、共済加入の推進活動に対する助成制度などの考え方について協議した。その一方で、組織人員の減少による財政枠縮小は深刻な問題であり、経費の削減と効率化を進めるとともに、組織拡大の取り組みも急務であり強化していくことを確認した。

## 「取り組みの広がり」 7/30 政策政治委員会

JAM山陰は、「第4回政策政治委員会」を開催。参院選の結果と取り組みについて意見交換を実施。委員からは「個人面談で組合員から『津田やたろう』の名前が出てこない」や「選挙区の名前は浸透しやすい」など、個人名の浸透が難しい実態を説明。また、「執行部中心の取り組みになってしまって広がりが作れなかった」と反省の声も聞かれた。

今後早い段階で、各単組の取り組みや組合員の意識に関するアンケート調査を実施し、定期大会までに中間総括をまとめることを確認された。



## 「企画の成功に向けて」 2010.7.30,31 JAM10周年記念ボランティア・キックオフイベント

JAMは、静岡県御殿場市で「第2回青年活動全国連絡会議」と「10周年記念ボランティア・キックオフイベント」を7月30,31日で開催。JAM山陰から、JUKI松江労組の土谷青年協副議長と国友書記局員の2名が参加した。



全国連絡会議では、各地方JAMの記念ボランティアの企画内容を発表し、意見交換を行った。引き続き、10周年記念ボランティア・キックオフイベント前夜祭と位置づけた交流会が開催され、出席者全員が翌日の富士山植樹活動への決意と抱負を発表した。当日は、あいにくの曇り空で富士山の頂上は望めなかったものの、参加者67名が午前中の準備作業と午後からの植樹活動に汗を流した。最後に参加者全員で「この体験をこれから行う地方の植樹ボランティア活動に必ず役立てて行こう」と誓い合い富士山をあとにした。

## 「みどりの大山に来てごしない！」 2010.8.1 青年協議会「第6回幹事会」

JAM山陰青年協議会は、第6回幹事会を三菱農機労働会館にて開催。役員ら17名が出席した。幹事会では、前日に静岡県御殿場市で行われた第2回青年活動全国連絡会議とJAM10周年記念ボランティア・キックオフイベントに参加した土谷尚平副議長(JUKI 松江)の報告と、2010サマーキャンプの内容について協議された。2010サマーキャンプは、10周年記念ボランティア「みどりの大山に来てごしない」と名付け10月2日に開催。「大山横手道上ブナを育成する会」の協力を得ながら、学習会とブナの植樹地整備などの活動に決定。参加者1人ひとりの地球温暖化やエコ活動への意識高揚と、植樹活動で美しい大山の環境保全を目的に取り組むことを決定した。



## 構成単組・地区協議会・関連団体の取り組み

### 「あなたの活躍を期待」 2010.7.3 OM 製作所労組「支部委員研修会」

OM製作所労組宍道支部では、支部委員を対象に研修会を開催。JAMの斉藤常書記長やJAM山陰の川野書記長を講師に「労働組合と政治の関わり」や「支部委員の役割」について学んだ。参加者からは、津田やたろうとJAMの関係や雇調金の要件緩和についての質問が出された。JAM職員から参議院議員へなった経緯や雇調金手続きの簡素化、受給要件の緩和を実現について説明を受けた。



### 「ものづくり基盤の強化へ」 2010.7.16 出雲地協「第22回労使会議」

今年で第22回目となる出雲地協「労使会議」が、出雲市の出雲ロイヤルホテルで開催され、構成企業のうち12企業から労使27名が参加した。山岡広幸議長(ヒカワ精工)は「厳しい状況が続く企業も少なくない。JAMは、ものづくり産業政策を強化することで企業と雇用を守る取り組みを展開している。構成企業の発展に資する実りある労使会議としたい」とあいさつした。基調講演としてJAM政策政治グループから本多康浩副グループ長を講師に「ものづくりを基盤とした成長戦略の確立に向けて」のテーマで説明を受けた。参加者からは、取引にかかわる素材単価の設定に関する質問が出され、津田やたろう組織内議員への要望もあった。参加労使は、引き続き開催された労使交流会で企業状況など情報交換を行なった。



### 「楽しみながら、ものづくり！」 2010.7.24 JC 島根「第2回親子ものづくり教室」

JC島根県連絡会と連合島根金属部門連絡会は、夏休み最初の土曜日である7月24日に、出雲市の青少年の家「サン・レイク」で「第2回親子ものづくり体験教室」を開催。島根県内の金属産業で働く親子約24組66名が参加して、音に反応して動くロボット製作に挑戦した。堀内幹夫代表(JAM)は「私たちが働くものづくり産業を、将来支えることとなる子どもたちが育って欲しい。親子の触れ合いとものづくりの楽しさを学んで頂きたい」とあいさつ。参加の家族からは「夏休みの楽しい思い出が出来た」や「完成したロボットが動いた時の子どもの表情に感動した」など喜びの声が聞かれた。

